

2018年7月

最終レポート（成長と後悔）

滝田 和己

1. はじめに

これで最終レポートとなりました。時が経つのは早く、初めて山西省に着いた日がまるで昨日のように感じます。もっと時間が遅く進めばいいのにとよく思います。しかし充実した留学生活もついに終わってしまいました。時間に置いて行かれないよう、今この時間を大切にしないとイケませんね。

今自分の胸には様々な気持ちであふれています。様々な面で成長できた達成感。現地で美味しいものをたくさん食べることができた満足感。この留学を生かして次なる目標に向けて頑張りたい気持ち。しかしそれと同時に、「あの時こうすればよかったなあ」や「あの料理、結局食べず仕舞いだったなあ」など後悔もあります。最終レポートではこういった後悔から感じたことをはじめ、過去のレポートでは触れなかった内容や、自分の留学に対しての考えを述べていきたいと思います。

2. もしまた留学をするならば

私の友人が以前、留学を終えてよく「後悔したところもある」と言っておりました。後悔という言葉は一般的にマイナスイメージで捉えられがちですが、留学を終えた時に感じる後悔は向上心の現れだと私は思います。もし後悔しなかったとすれば、その人はすべて満足してしまいそこで終わってしまいます。もちろん後悔ばかりで何もしてないような留学もどうかと思いますが…（笑）

そこで重要になるのが、留学後の行動です。過ぎたことを戻すことができませんから、次後悔しないためにはどうすれば良いか考える必要があります。では、私は何を後悔したか例を挙げてみましょう。

- ・ 報告レポートでよりいい文章が書けた。
- ・ もっと中国語のレベルを上げられた。
- ・ より多くの場所を旅行すればよかった。
- ・ もっと埼玉県のことを伝えられた。
- ・ 和服を持っていけばよかった。
- ・ 中国の歴史を勉強すればよかった。
- ・ 中国人にインタビューやアンケートをしたかった。
- ・ 食べ過ぎて太った。等

私は昔から国語が苦手で、文章を書くことも正直苦手です。他の人の報告レポートを見ても、「よくこんな凝った文章が書けるなあ」と何度も思いましたし、知らない言葉や表現も度々見かけました。自分のレポートを見返してもたまたまに分かりづらい文章がありました。苦手だからこそのいい文章を書くにはどうすればいいか勉強が必要でしたし、大学で出席した「日本語リテラシー」の授業内容をよく復習すべきでした。しかし、この報告レポートを通して文章を書くことに慣れてきた気がします。そこはプラスに捉えています。

語学学習での後悔は、留学後誰もがする後悔でしょう。私自身 HSK 6 級を僅かに点数が足りずに合格できませんでした。試験前、部屋でアニメのポケモン中国語版（内容は日本のアニメで音声と字幕が中国語）を見る時間があつたら、もっと試験対策をしておけばよかったと思っています。私は中国人と日本人のハーフだということもあり、母が話す中国語を昔から耳にしていたので、正直 1 年も中国にいれば HSK 6 級も楽に受かるだろうと思っていました。しかしその気の緩みが落とし穴でした。やはり意識が大切です。例えるならばメジャーリーガーのイチロー選手のように、素晴らしい成績を収めても今の自分に甘えず、常に向上心を持つよう意識を改めて、次また試験に挑みたいと思います。

埼玉県のことを紹介する機会をあまり作れなかったことにも後悔があります。私はサークル活動で日本語を教える際に埼玉県を紹介しましたが、それ以外ではなかなか機会がありませんでした。ほかに日常会話でももっと埼玉県を話題に取り上げればよかったです。

海外留学で和服を持っていくと珍しがられ、日本のアピールにもなります。山西大学ではイベントにおいて留学生に自国の服装を着させることが何回かありました。アフリカから来た留学生はみんな同じような伝統的な服装を身にまとっており雰囲気もよかったのですが、私は日本を代表する和服を持っていかなかったので私服を着て参加し、イベントでは物足りなさを感じました。中国では日本に興味がある学生も多く、和服を着ると中国の生徒から声をかけられることもあると思います。少し目立ちますが留学生主体のイベントでは盛り上がりやすく、中国人の友達も多くできるかもしれません。日本語を勉強している中国人も、一緒に勉強してくれる日本人友達を常に探していますし、友達になるきっかけ作りにも和服を持っていくといいでしょう。

私は博物館や美術館に行くのが好きで、中国でもたくさん博物館に行き歴史に触れました。遠い昔に発掘されたのも、古代の芸術、どれも中国らしいミステリアスなものばかりで見ていて楽しかったです。展示物を見るだけでも楽しかったのですが、歴史的背景の知識があればもっと楽しかったのだろうと後悔しています。私は理系で世界史をちゃんと勉強したことがないのですが、それでも中国に来る以上歴史の基礎知識は必要だと感じました。文系の方は世界史の教科書や資料集を持っていき、それを見ながら博物館に行くことより知識が深まると思います。学校の授業や会話の話題でも歴史についてはよく取り扱われます。また近代における日本と中国の関わりの推移も知るべきです。私は中国に留学してからより歴史に関心を持ったので、帰国後も歴史の知識を深めたいです。

インタビューとアンケートについて。私はよく友人と、世界の人々の思考や考え方の違いについて議論することがあります。日本人には日本人の性格や傾向があると思いますし、もちろん国ごとにそれらは違います。「日本人はよくこう考えるけど、じゃあ中国人はどうだろうか？」と考えたときに、留学中に現地の友達にインタビューやアンケートをしてデータを出して比較をすれば面白かったなと思います。私自身が関心を持つ環境問題についても、中国人はどう思っているのかをもっと追求したかったです。私は実際に 6 月レポートの内容でも取り扱った環境問題についてインタビューし、日本語を教えるサークルの生徒を対象に日本語と文化についてアンケートをしました。インタビュー結果を整理すると、まるで研究しているみたいで面白いですし、そこから学べることも多いと思います。これからも海外留学に興味があるのであればオススメです。

これらを踏まえて、もし私がまた留学するときに気をつけたいことを挙げてみました。

- ・また報告レポートを書く機会があれば、分かりやすく上手な文章作りを勉強する。
- ・常にイチローのような向上心を持つ。
- ・事前に行きたい旅行先を調べて、早めに予定を立てる。
- ・和服を持っていく。
- ・現地の歴史を把握する。
- ・留学だからと言って勉強だけでなく、それ以上のことをする。様々なイベントや現地ではできないことを積極的に参加して、自由研究のようにインタビューやアンケートを多く実施して結果を出す。
- ・つい美味しくても、体と相談して食べ過ぎないように注意する。運動もする。

3. 中国に行って生まれ変わりました

日本に帰国してから日本の友人と会う機会があったのですが、「滝田くん、なんか変わったね!」と言われることが多々ありました。そして私自身も、留学中に自分の性格がもっと明るくなり、よりお喋りになったように感じます。私はもともと口下手な方で、高校時代は少しシャイなところもありました。レストランで店員を呼ぶのも少し抵抗感があったほどです(笑)しかし中国では、生活して行く上でカタコトの中国語でも様々な人に尋ねないといけませんし、正直シャイだなんて言ってもらえません。こう言うと外国での生活においてハードルが高いよう聞こえますが、私は中国で人に声をかけやすかった気がしました。基本的に中国人はみんなフレンドリーで、日本の堅苦しいイメージはなく、砕けた雰囲気ほとんどでした。日本では、公共の場では言葉遣いが重要です。「すみません、〇〇はどこにありますか?」日本のスーパーで店員に目当てのものを訪ねるときはこのように丁寧な表現をしたいと思います。しかし中国ではここまで改まった言い方では尋ねず、もっとフレンドリーな口調で客も店員も話します。「ねえ、〇〇はどこ?」日本語で言うところの具合でしょうか。もちろん中国にも丁寧な会話表現はありますが、一般の公共施設では日本ほど重要ではないそうです。正直話するのが楽に感じましたし、中国人が老若男女問わずにみんなお喋りが好きな理由の一つだと思いました。そのような環境下で1年滞在したことで、私自身もっと明るい性格になり、人に話しかけることへの抵抗感もなくなりました。引っ込み気味な気質から、留学を通じてコミュニケーション能力という最高のプレゼントをもらいました。

そんなお喋りが好きな中国人ですが、ここで中国人同士の会話を想像してみてください。——きっと大声で、ちょっと怒りっぽい口調で話す中国人を思い浮かべた人もいることでしょう。もし日本の街中でそのような中国人を見かけたとき、その人に対してどう思うかが重要だと思います。確かに大声で話すことや着信音がピロピロ鳴ることは日本のマナーに反することも多く(特に電車で)、不快に感じる人もいると思います。しかし、それらは中国では当たり前のことなのです。国の文化や行動する場所が違うだけであり、彼らも私たちも自国の文化を尊重して行動しているだけなので、違和感を感じてもまずは相手の習慣を理解することが大切です。留学により世界中の人々と交流でき、お互いを世界的な広い視野で尊重できるようになったのも私にとっては大きな成長です。ずっと日本にいては感じるもののなか

ったことを留学は教えてくれました。みなさんも是非留学をして自分探しの旅をしてください。

4. アンケート結果

外国語サークルで実施したアンケートの結果をまとめたものです。

なおこのアンケートは、外国語サークル及び日本語サークルで、生徒が何に興味関心があるか知ることがを目的に作りました。参考程度で見てください。（本来は日本語サークルの生徒たちにもアンケートを実施したかったのですが、機会が無く結局できませんでした。）

Q. 日本の何について知りたいですか？

- A. ・日本の食べ物・・・7人
・文化や習慣・・・5人
・日本人の日常・・・5人
・大学生活・・・3人
・服装や和服・・・3人
・お茶、茶道・・・2人
・歴史について・・・2人
・本や物語・・・2人
（その他：漫画、旅行、弁当、藝者、羽生結弦、風景、神社、信仰、性格）

Q. 日本に行ったことはありますか？どこへ行きましたか？
行くなればどこへ行きたいですか？

- A. 行ったことがない人がほとんどでした。
行きたい場所の人気度は以下になりました。
・東京・・・5人（日本の首都だからという理由もありました）
・奈良・・・4人（子鹿を見たい生徒が多かったです）
・京都・・・3人
・栃木・・・3人（私の出身県なので生徒が書いてくれたのだと思います）
・北海道・・・2人
・富士山・・・2人
・大阪・・・2人
・仙台・・・2人
（その他：桜を見たい、海辺、沖縄、神戸）

Q. 日本語を勉強していますか？日本語を勉強する理由は何ですか？

- A. 本気で勉強している・・・5人

少しだけ勉強している・・・5人

まだ勉強していない・・・6人

- ・少し勉強した。日本語の歌が好きで、日本語を使って交流したいから。
- ・勉強したいが、難しいのでまだ勉強していない。
- ・日本の文化を知りたく、言語も文化の一つだから。日本の歌も好き。
- ・将来日本へ旅行するために少し勉強した。
- ・学ぶ予定。日本文化に興味があり、日本人は世界的に見ても趣き深い人種。また同時に日本のことをたくさん知りたい。
- ・基礎と簡単な会話表現を学んだ。日本語の発音が綺麗で好き。
- ・まだ勉強していない。機会があれば勉強したい。
- ・羽生結弦ファンで少し勉強した。しかし今の勉強する理由は日本をもっと知りたいから。
- ・日本語は本当に勉強する価値があり、文化に興味がある。また、村上春樹の本、アニメ、漫画、安室奈美恵の歌も好き。
- ・今勉強している。だって好きだから！
- ・日本の漫画は凄い！ 等

アンケートではこれらの他に「この授業の難易度はどうですか？」など、授業についても聞きました。サークル活動を通じて中国語のスキルはもちろん、多くの友達に恵まれ、週に一度の楽しみとして私の留学生生活をより豊かにしました。これからも多くの日本人が山西大学の日本語サークル、外国語サークルで活躍することを祈っています。

5. おわりに

1年間の留学がついに幕を閉じ、率直に1年間は短かったなと感じています。1年は短い。だからこそこれから留学に行かれる方には充実した毎日を送って欲しいです。特に山西大学はイベントやサークルも盛り沢山で、是非スケジュール帳に文字がぎっしり詰まるほどの留学生活をして欲しいです。サークル活動、旅行、午後の文化の授業、詩の朗読大会、演劇、HSKの勉強などなど。私は中国での経験が、今では大きなモチベーションになっています。異国の慣れない空間で過ごした1年間、最初は交通機関や情報もなくショッピングモールまで2時間かけて歩いたこと、勉強熱心な友人、優しく授業をしてくださった先生、フレンドリーで毎日笑顔が絶えない留学生・・・中国での思い出を語れと言われたら、2時間では済まないほどの経験をさせていただきました。レポートでは伝わらない充実感を、多くの方が留学をして経験して欲しいです。

私は留学することを強くお勧めしています。特に理系の人にお勧めします。私は化学を専攻している理系大学生で、将来の仕事では化学で勝負したいと思っています。そんな私が、全く別のことを学ぶ留学経験で得たものは決して無駄なものではないと思います。グローバル化がホットワードであるこの世の中、よく語学力が注目されがちですが、重要な点は会話やコミュニケーションの「内容」だと考えています。私であれば「環境面における化学」です。より高度な自分の専門や研究のフィールドを海外に広げることがグローバル化への貢献度は高いだろうというのが私

の意見です。つまり語学力は専門のフィールドを海外へ移すための重要なツールです。日本の素晴らしい技術や人材を日本国内だけでなく海外へ発信することでよりグローバル化が進み、平和で豊かな未来を創り出す第一歩になります。したがって私は、専門分野と語学の両方を大切に勉強しています。現在中国語の需要は高まっており、中国語を使用する人口も多く、グローバル化には欠かせない存在です。理系にとってもチャンスだと思いますし、私のレポートを読んで少しでも留学に興味を持ってくれる人がいるならば嬉しい限りです。

最後になりますが、埼玉親善大使の役目も果たし、この留学生活を通じ得た経験は間違いなく自分の成長のための種になります。かけがえのない時間をくださった埼玉県庁国際課の職員様には心よりお礼申し上げます。また最高の思い出をくれた山西大学の先生や友達、一緒に苦楽を共にした日本人メンバーの皆さんにも感謝が尽きません。留学の手助けをしてくださった東洋大学、いつも応援してくれた家族にもとても感謝しています。ありがとうございました。谢谢。



中国では一番難しい漢字と言われています。発音は「biang」。この「biang biang 面」は西安で有名な食べ物です。平べったいベルトのような面が特徴です。私の太った丸顔も見えますね。



1年間ずっと参加してきた中国画クラスでの最後の作品。中国画は中国に来てから初めて体験し、ゼロから学んだのですが、すっかり夢中になってしまいました。正直1年だけではまだまだもの足りないです。また機会があれば再度中国画を学びたいです。



あるショッピングモール内の焼き肉食べ放題店前にて。これらの大学は中国トップクラスの大学です。この柱の間を通り抜けることができれば安い値段で食べられる仕組みになっています。ちなみに私は頑張ってお腹を凹ませ、友達に押ししてもらうことでギリギリ浙江大学と复旦大学の間を通ることができ、49.9元（約850円）で食べ放題を食べることができました。みなさんも是非挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。